

技術開発部報告書情報シート

記入年月日: 2006年9月21日

情報No.	K-06-4	情報区分	プラ処理協研究報告		
題名 報告書名	プラスチック製容器包装の処理に関するエコ効率分析2006年度				
報告年月	2006年9月	ページ数	109	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式	MR, TR, CR, 埋立 ごみ発電	要素技術	LCA
樹脂類別	容リ法対象混合プラスチック	化学物質名	
形状別	プラスチック製容器包装廃棄物	用途別	
法規制	容器包装リサイクル法	国別	日本

調査 研究 内容	<p>容器包装リサイクル法対象の分別収集されたプラスチック製容器包装廃棄物のリサイクル手法について「製品バスケット法」を用いて経済および環境の両面からエコ効率分析を行った。</p> <p>2005年度報告書「プラスチック製容器包装の処理に関するエコ効率分析」以降、次の環境変化があった。</p> <p>(1) エネルギー回収の手法の一つとして、固形燃料であるRPF(*)が大きく市場を伸ばしつつあり、これの環境負荷的な位置づけが必要になってきた。</p> <p>(2) (財)日本容器包装リサイクル協会のガイドラインにおいて、再生事業者の工程で分別除去された廃プラスチックの直接埋立て禁止となったことから、これによる環境負荷の変化も取り入れる必要がでてきた。</p> <p>これらを考慮し、本年度のエコ効率分析を実施した。</p> <p>調査対象</p> <p>(1) MR: 再生樹脂の製造、(2) CR: 高炉原料化、コークス炉原料化、ガス化、(3) TR: セメント原燃料化、RPF化、廃プラ発電の7種類を分析対象とし、参考として、リサイクルしないで埋立処分するケースを考えた。</p>
調査 研究 結果	<p>本分析の検討結果のまとめ</p> <p>1) エコ効率分析の観点からは、RPFは、ガス化、セメント原燃料とほぼ同じ位置となり、廃プラ発電も含めて、相対的に最も望ましい位置を占めた。</p> <p>2) ケミカルリサイクル(CR)は相対的に環境負荷の面では良好であるが、経済的負担は大きい。</p> <p>3) マテリアルリサイクル(MR)の新規樹脂代替率が30%の場合、エコ効率分的な観点からMRは埋立と同程度の位置関係にある。</p> <p>4) 埋立はエコ効率の観点から望ましくない選択肢である。</p> <p>各リサイクル手法の改善点は以下である。</p> <p>(1) CRは環境面からはバランスがとれた手法であるが、経済性の改善が課題である</p> <p>(2) MRは経済性の改善、分別廃棄物の有効利用が課題である。</p>

備考

--